

編集後記

埼玉県環境科学国際センター報は、県民並びに関係諸機関に当センターの活動を紹介するための情報源としてだけでなく、環境情報の収集・発信のための媒体としての役割がある。当センターは平成12年4月に活動を開始しており、本報(第16号)は、16年度目に当たる平成27年度の活動を記録したものである。

平成27年度は、経常的な諸活動の推進に努めることはもとより、研究活動の充実が図られた。例えば自主研究については、新たに地球温暖化対策、PM2.5対策、希少野生動植物の保護などに関する研究を開始し、外部資金を活用した研究としては、気候変動適応策、廃棄物対策、化学物質対策、水環境保全対策等に関する研究を開始した。また、環境学習施設である展示館内には、宇宙から見たリアルタイムの地球の様子を映し出すデジタル地球儀「触れる地球」を設置し、学習機能の充実を図った。さらに、これまでネット上での環境情報の発信に用いられてきた「埼玉県地理環境情報WebGIS」をリニューアルして、「地図で見る埼玉の環境 Atlas Eco Saitama」による情報提供を開始し、情報発信機能の強化を図った。

本年3月には、平成23年4月から5年間に渡り、センターの発展に尽力された坂本和彦総長が勇退された。これまでのご功勞に深く感謝する次第である。

本報は、印刷原稿の作成までをセンター全職員の参加により行ったものであるが、編集方針・内容の決定、具体的作業に当たっては、下記の編集委員会がその任を負った。

平成28年9月

編集委員一同

編集委員会

白石英孝(研究推進室長)	小林雅彦(事務局)
小沼友美(研究企画室)	松本利恵(研究推進室)
渡辺洋一(研究推進室)	八戸昭一(土壌・地下水・地盤担当)
嶋田知英(温暖化対策担当)	茂木 守(化学物質担当)
田中仁志(水環境担当)	